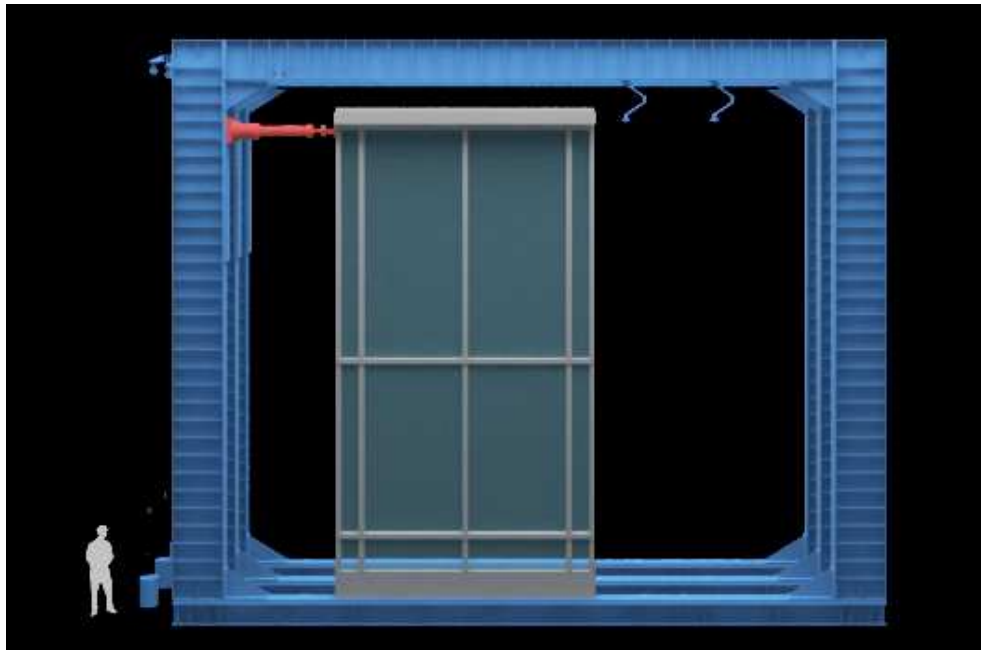


# 多層構面用水平加力試験装置

## — 静的・動的による変形追従性試験 —



### ◆試験の概要

建築物を構成するうえで、外壁材は主に風圧力に抵抗しており、JISやJASSなどで耐風圧・衝撃性能を確認することが規定されているが、天井材なども含めた非構造部材の耐震設計・施工要領を定めた基準書などでは地震時には外壁材が崩落・脱落しないことも同時に要求されている。

そのため、建設省告示で規定された層間変形角（ $1/150\text{rad}$ ）時に対して構造物の変形に対する非構造部材が追従できるかを確認する試験が必要となる。

### ◆試験の内容

当センターでは、1992年10月に団体規格として「建材試験センター規格（略称：JSTM）」を制定し、社会ニーズなどに対応した試験方法の作成・普及に努めている。その中に、非耐力壁の面内せん断曲げによる動的変形能試験がある。同試験では、所定変形角を定めた上で正弦波による加振を60秒間与える方法となっている。

### ◆装置の概要

載荷：静的又は動的面内せん断  
最大試験体高さ：約8m  
最大試験体幅：約8m  
アクチュエータ： $\pm 200\text{kN}$ 、 $\pm 150\text{mm}$   
(最大速度：30Kine)

### ◆試験の対象となる部材

- ・中高層建築物に使用する各種のカーテンウォール、はめ殺しガラス窓  
(例えば、長さ8m、高さ8mのカーテンウォール)
- ・住宅に使用する窯業系サイディング・金属サイディング材・モルタル塗りによる外壁  
(例えば、長さ8m、高さ8mの開口付き外壁)